

尼崎市立若葉小学校 平成22年度 学校評価

学校関係者評価委員会について

委員：学校評議員3名
 育友会長・副会長
 学校：校長、教頭
 開催：平成23年3月5日（土）
 午後6時～8時
 若葉小学校 校長室

- 1 教育目標・めざす子ども像 わ：若い芽を伸ばす子（強い体） か：考えを深め合う子（強い頭脳） ば：場を美しく、心豊かな子（強い心）
- 2 めざす学校像 ・わくわく心がはずむ楽しい学校 ・学習の基礎・基本をしっかり学習できる学校 ・地域の人々に親しまれる学校
- 3 めざす教師像 ・愛情をもって、全ての子どもの可能性を開く教師 ・研修と研鑽に努め、人格と教育技能を磨く教師 ・家庭と地域に信頼される教師
- 4 本年度の重点取組 (1) 学力の向上 (2) 豊かな人間性の向上 (3) 健康の増進と体力の向上 (4) 保護者や地域に信頼され、活力に満ちた学校

5 学校評価（自己評価及び学校関係者評価）

自己評価の基準	4：十分達成できた	3：達成できた	2：取り組んでいるが、成果が十分でない	1：取組が不十分である
関係者評価の基準	4：よく取り組んでおり、成果が大きい	3：熱心に取り組んでおり、今後が期待できる	2：取り組んでいるが成果が十分ではない	1：取組が不十分である

(1) 学習意欲を高め、確かな学力を身につけさせる

評価内容	具体的な取組	成果・課題等	自己評価	改善策	学校関係者評価委員会での意見
教職員の協働体制の確立 家庭学習の習慣化 教員の指導力の向上 ひとりひとりの教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・校内の生徒指導や研究研修体制を低学年部・高学年部の2つに分けて取り組んでいる。 ・放課後学習を2回設定し、児童へ担任が声をかけて残し、指導補助員を中心に教頭や担任が学力補充の指導にあたっている。 ・専科、保健も含め、1人1授業以上を公開し、事後研究会を持ち、各教員の指導力向上を図っている。 ・小規模校の特性を生かし、特別な支援の必要な児童を全教職員が理解し、毎月の特別支援推進委員会、職員会議で情報交換を行い、対応している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1人1回以上の研究授業を実施し、事後の研究会をもち、講師（外部講師を招聘しない場合は校長）の指導助言をあおぎながら、指導力の向上を図ることができた。 ・中堅教員を中心にした低学年部・高学年部2つの学年団が、定着しつつある。 ・担任が、理解の遅い児童に放課後学習に残るように働きかけ、教頭、教員が指導補助員と共に指導し、効果が見えてきた。 ・小規模校で職員数が少なく、各教員の校務分掌の負担がますます大きくなった。 ・単学級で経験の浅い教員が多い中、教員の指導力の向上には限界がある。 ・特別支援学級での不登校について、改善されなかった。 	2.5	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の学習タイム、昼の計算タイムを継続させ、習慣化させる。 ・非常勤講師、ボランティアなどの人的配置に努める。 ・宿題忘れなどは、保護者への協力を求め、教師があきらめないで指導する。 ・放課後学習を全校体制で取り組み、学力の基礎基本の定着に生かす。 ・朝学習での読書活動、音読指導をより充実させ、各教科での発表、特別活動など、日々の学校生活に生かす。 ・特別な支援の必要な児童については、保護者を含め、全校体制での声かけを行う。 ・児童や保護者の変化を見逃さないで、情報は共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市学力・生活実態調査結果において、国語、社会科の通過率がほぼ全国と差がないことは評価できる。これは、校長の説明からも本校が国語に力を入れている結果であろう。しかし、算数と理科が全国や市と比較し、かなり低い。学校関係者評価委員は、教育の専門家ではないので、結果を見ての評価になる。厳しいかも分からないが、結果を出せるようにがんばってほしい。 ・音読指導など、新しい取り組みが効果的であったことは、評価できる。（関係者評価：2.5）

(2) 心の安定を図るとともに、規範意識を育み良好な人間関係づくりに取り組む

評価内容	具体的な取組	成果・課題等	自己評価	改善策	学校関係者評価委員会での意見
道徳性の涵養とよりよい人間関係の構築 基本的生活習慣の確立と情報モラル等の指導の充実 相談体制の充実と長期欠席者ひとりひとりの実態に応じた指導の充実 進路指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳年間計画の見直しと実践。年1回の全学年で道徳（人権）参観授業を実施し、懇談会で道徳の授業について説明する。 ・毎朝、校門でのあいさつ指導を全教員で実施し、教師自らが規範となる。 ・男女を問わず「さん」付けて呼び、人権感覚を育み、学校生活のあらゆる場面でのコミュニケーション能力の向上を図り、よりよい学級集団づくりに努める。 ・情報モラルや情報安全の指導体制を組み、携帯電話などの家庭での安全な使用について保護者の理解協力を求める。 ・長欠児童保護者の理解に努め、担任1人ではなくチームで支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳年間計画を見直し、後期オープンスクール中に道徳の参観授業を実施し、終了後の懇談会で道徳（人権）の話題を取り上げた。 ・地域の見守り活動の方から、進んであいさつをする児童が多くなったと聞いた。 ・生徒指導上の問題等は、すぐに状況を把握し、関係機関と連携し、解決へ向けて動くことの大事さが全職員へ浸透してきた。 ・まだ、児童の言葉遣いが乱暴であったり、名前を呼び捨てで呼んだりすることが多く、「さん」付けの定着が図れていない。教員側の指導の徹底が十分とは言えない。 ・雑務等、多忙で余裕が無く、児童と一緒に遊ぶ教員が少ない。 	2.5	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、日記指導など、児童の内面理解に努め、担任以外の職員も、児童のよりよい成長に携わっているという意識をもつ。 ・教師自らが率先して、「さん」付けて呼び、教師が互いに注意しあい、自らの人権感覚を磨く。 ・来校した保護者への温かい声かけ等、保護者が相談しやすい（保護者の方から声を掛けやすい）雰囲気、体制をつくる。 ・トラブルは担任1人だけで抱え込まない。学年団や管理職と相談しながら対応する。 ・今後も、児童の欠席状況や欠席理由の把握に努め、早期対応にこころがける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の努力には感謝している。 ・小規模校で教職員数が少ないのは分かるが、結果が出ないことの原因としていないか。 ・家庭の意識が重要である。保護者に家庭の責任を自覚させるためには、これからも啓発が必要である。（関係者評価：3.0）

(3)健康の増進と体力の向上を図る

評価内容	具体的な取組	成果・課題等	自己評価	改善策	学校関係者評価委員会での意見
望ましい生活習慣の育成	<ul style="list-style-type: none"> 「早寝・早起き・朝ごはん」運動の啓発に努める。 食育の全体計画、指導計画の作成、実践。 家庭と協力して、児童自らの体や健康について、関心を持たせ、健康の増進や体力向上を図る。 保健部で、年度ごとに取組テーマを決めた活動。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケートで、「子どもに決まった仕事をさせている」「早寝早起きをさせている」の回答が昨年度比で8～6%低かった。 給食の残食が少ない。 教室内外の清掃、整理整頓は十分ではないが、換気には気をつけるようになった。 決まった遅刻者があり、集中下足室の靴、週末の上靴持ち帰りが定着できなかった。 	2.5	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な「早寝・早起き・朝ごはん」運動の啓発に努める。 保護者の協力を得ての食育の推進に努める。 学校保健委員会の持ち方について、育友会と協議しながら、保健部を中心に計画する。 トイレ後の手洗い、毛髪のとめ方など、保健委員会児童が提案したことを全児童が自らの問題として身に付けられるように支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> 早寝、早起き、朝ごはんの啓発は、重要なのでこのまま継続指導をするべきである。 トイレのあとの手洗いや女子の毛髪のとめ方等の生活習慣は家庭との両面での指導が必要である。 学校はよく努力している。 (関係者評価：3.0)
健康の増進と体力の向上					

(4)保護者や地域に信頼され、活力に満ちた学校づくりに取り組む

評価内容	具体的な取組	成果・課題等	自己評価	改善策	学校関係者評価委員会での意見
登下校の安全確保の取組の充実と校内の安全	<ul style="list-style-type: none"> 地域の見守り隊の協力で、登下校時の安全、校門の施錠システムと安全管理員を有効に使用して、校内への不審者の侵入を防ぐ。 関係機関の協力を得て、校内防犯訓練を実施し、危機管理意識の向上を図る。 学校日より、校門外掲示板、ホームページなどで、常に本校の教育活動についての情報発信をする。 オープンスクールを6月と10月に各3日間実施し、児童の成長を見てもらう。 オープンスクール等の学校行事を社協会長を通して地域へ知らせ、幼稚園、保育所、中学校にもポスター掲示を依頼。 地域行事への職員の積極的な参加を促し、子ども会、青少年育成団体と積極的に交流。 1人1人の教職員が、絶えず自己研鑽に励むことができるように校長として支援。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の見守り隊の協力、安全管理員、スクールガードリーダーなどの人的配置、校門施錠システムの有効利用等で安全で安心な学校づくりができた。 月1回の安全点検で不都合な箇所はすぐに修理修繕等の対応ができた。 若葉の特色を生かしたすもう大会を週休日のオープンスクールに組み入れて、好評であった。 1回の平均授業参観率(59%→49%)、学級懇談参加率(20%→20%)と昨年度よりも少なくなった。 学校評価の保護者アンケートの回収率が71%(昨年度78%)とダウンし、本校教育活動への関心が低くなった。 ホームページの月2回以上の更新、校門掲示板の活用など学校からの情報発信はできた。 教職員の中に校外への研修へ参加しにくいという意見があったが、理由が解明できなかった。 	3.0	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、地域連協や健全育成協議会等の行事への職員の積極的な参加を呼びかける。 保育所、老人会などへのオープンスクールを始めとする学校行事開催についての積極的な情宣活動に努める。 教員が安心して研修会に参加できるような体制を整え、研修の機会を保障する。 4年の総合学習で地域の歴史を取り入れ、児童に(保護者を含めて)、地域への愛着、地域への誇りを持たせ、自尊感情を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校と地域との密着の推進は、独自性もあって良好である。 学校側の取り組みは、十分評価できる。 (関係者評価：3.0)
特色ある教育活動の推進					
開かれた学校づくりの推進					
教職員の自己研鑽					

(5)教育目標

評価内容	具体的な取組	成果・課題等	自己評価	改善策	学校関係者評価委員会での意見
教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開	<ul style="list-style-type: none"> 年度初めに、職員会議で教育目標について説明し、保護者や地域へも学校日より、ホームページで知らせる。 年度初めと年度半ばに学級担任との面談を実施し、計画目標の進捗状況を確認する。 学校行事毎に保護者アンケートを取り、目標の具現化が図れているか検証し、次年度に生かす。 加配教員の配置を工夫し、児童の学力向上、生徒指導に生かす。 兵庫型教科担任制を導入し、5・6年生の理科と算数で教科担任制を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 校務員、調理師等の市費職員も、けんかやいじめの気配など気になることを情報として入れてくれるなど、教育目標達成の一端を担った。 保護者・地域参加の体育大会、図工展だけでなく、学校保健員会などの学校行事でも、保護者アンケートを取り、目標の具現化が図れているか検証できた。 5・6年で兵庫型教科担任制を導入し、理科を6年担任(主幹教諭マネジメントの講師)とSS教員のTTで、算数を担任とSS教員が少人数の形態で指導することによって、児童へ多くの教員が関わり、学習でも生徒指導上でもきめ細かな指導を図ることができた。 	3.0	<ul style="list-style-type: none"> 教育目標達成のために、PDCAサイクルに則って、計画的に継続して指導を行っていく。 学習時間以外の場での指導も含め、1人1人の教職員が教育目標を具現化し、日々の指導の基盤におくよう、心がける。 引き続き、兵庫型教科担任制を実施し、理科教育推進へ、その良さを生かした指導方法を探っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> これからもPDCAの充実が必要。繰り返しの努力に期待したい。 ホームページでも、教育目標や学校評価について掲載されているが、どれだけの人が見ているか疑問。見る側の意識が必要である。 (関係者評価：3.0)
教育目標の具現化と指導の充実					

(6) 研究テーマ

評価内容	具体的な取組	成果・課題等	自己評価	改善策	学校関係者評価委員会での意見
研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開	<ul style="list-style-type: none"> 研究内容を充実させるため、研究組織を1～3年の低学年部会、4～6年の高学年部会の2つに分け、それぞれの部会に経験の豊かな教諭を配置し、経験の浅い教員の指導力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 低・高学年の2つのブロックを中心に、専科を加え、研究を深めることができた。 今年度も、学級担任が3/7人の半数近い異動で、研究の積み上げは難しい。 昨年度に引き続き、全教科を対象に「伝え合う力」の育成をテーマにしたが、国語以外でも研究授業を実施することができた。 音読指導法を学ぶため、石橋淑子氏を招聘し、研修会を実施した。 週1回の音読指導を全学年、1年間続けることができた。低学年に成果が顕著だった。 1人1授業も含め、研究授業後には事後研究会を持ち、双方向の学びを深めた。 学年内での達成感はあるが、低→高学年への積み上げがない。 	2.5	<ul style="list-style-type: none"> 学年毎の力の積み上げができるように、文章化してきっちり次年度へ送る。 教師1人1人が全教科、道徳・特別活動等においても、「伝え合う力」を意識して、指導にあたる。 学習したことが日々の生活に生かせるように（音読→児童会活動での発言など）、活用力を意識して指導にあたる。 	<ul style="list-style-type: none"> とても分かりやすく、いいテーマである。 「伝え合う力の育成」というテーマは、これからの子どもたちにはとても必要なことである。継続こそ力。これからも地道な努力をお願いしたい。（関係者評価：3.0）
研究テーマの具現化と指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 「伝え合う力」をテーマに、国語科だけでなく全教科を通して言語活動の充実を図る。 昨年度の成果と課題を受けて、引き続き研究を深めるために、甲南女子大学の原田教授に指導を願う。 単元学習を通しての研究が、児童の学力向上に効果を上げられるよう、また、教師の指導力向上を図ることができるよう、継続を大事にする。 全学年の朝学習で週1回音読を取り入れる。 				

(7) 新学習指導要領

評価内容	具体的な取組	成果・課題等	自己評価	改善策	学校関係者評価委員会での意見
新学習指導要領の理解	<ul style="list-style-type: none"> 校内での研修会を組み、新学習指導要領の理念、各教科の改正点など理解を図る。 今年度中に、平成23年度各学年の各教科・領域の年間計画を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 新学習指導要領の理念、各教科の改正点など理解を図るために、校内研修を持つことができた。 平成23年度の各学年各教科の年間計画を作成し、教科主任が教科の縦の系統で確認し、新年度スタートがスムーズにできるようにした。 時間数の少ない教科については、担任が学習指導要領における教科目標や内容を十分理解せずに指導しているものがあつた。 職員間で、評価が割れ、「理解」に対する認識の個人差が大きいことが分かった。 	2.5	<ul style="list-style-type: none"> 年間計画については、年度明けに新学年による確認を行い、実践する。 年度末に各教科・領域、課題教育等の年間計画の見直しを図り、次年度へ備える。 備品の整備等を図り、学習に支障の無いようにする。 	

※ その他の評価項目 (A:優れている B:適切である C:おおむね適切である D:要改善)

アンケート等、自己評価の根拠となる資料は適切か	C
自己評価の結果の内容は適切か	C
自己評価の結果を踏まえた今後の改善策は適切か	B

※ その他、学校関係者評価委員の方々から、次のようなご意見もいただきました。

- この地域は阪神淡路大震災を経験している。児童には、防災の指導をしっかりしてほしい。また、今後起こるであろう地震での津波に地域を含め備えなければならない。
- 市の枠組みならしかたないが、評価資料の内容が多く、字が小さく見づらい。
- 学校の方針等は最初に文書でもらうが、今回のように校長から話を聞くのが一番よく分かる。最初に、1年間の教育についての説明をしてほしい。その上で、年度末に結果を報告してもらい、初めて評価できるのではないか。事後報告だけの評価には無理がある。
- 学校評議員が学校関係者評価委員を兼ねるのなら、評議員は学校へ来て、実際に教育内容を見ることができるとの方がよいと思う。

①については、今後も『1.17は忘れない』地域防災訓練を通して、児童の学習、保護者・地域への啓発に取り組みます。

②については、市教委の様式なので仕方がないが、拡大して印字することにします。

③については、年度初めに学校関係者評価委員会をもち、学校経営目標に従って具体的な取組を説明し、年度末には今回の様な評価を目的とした委員会を持ちます。

④については、今回評議員が一人交替されるので、次は「学校へ来て、実際に教育活動を見ることが出来る」方を推薦していただきました。